

## 第9回保健医療分野 AI 開発加速コンソーシアム意見書

一般社団法人日本医療機器産業連合会  
副会長 渡部眞也

2019年11月20日に開催されます第9回保健医療分野 AI 開発加速コンソーシアムに所用のため出席できませんので、以下の意見を提出致します。

これまで8回開催されてきた本コンソーシアムの中で AI の開発や利活用について有識者により活発で幅広い議論が行われ、開発段階を8つのロードブロックとして同定し、それぞれに応じた課題事項を体系的・網羅的に整理したことは大変有意義だと考えます。それらを本年6月の報告書に取り纏めたことを踏まえ、次のステップとして工程表を策定し実行を進めていくことは適切な方向性と考えます。

今後について医療機器産業の立場から以下の2点の意見を申し上げます。

第1は、本年9月に深層学習を使った画像診断 AI が初めて承認された様に、この1年半の間に AI 開発や社会実装は急速に進んでいます。これら最前線での進捗や課題を共有することが本コンソーシアムでの議論を現場に即したものにするために重要と考えます。特に、薬事プロセスについては事例を積み重ねることで完成度を高めていくアプローチと認識しており、現時点での考え方や残課題の整理は有意義と考えます。

第2は、本コンソーシアムは AI 開発と利活用促進に向けた検討を狙いとしており、前者が加率的に進捗していることを踏まえ、今後、利活用促進、特に社会実装に向けた議論をどう進めるかを明確にしていく必要があると考えます。例えば、① AI のアプリケーションをどのようにして臨床現場に届けるか、②安全性に関わる周知やソフトウェア更新をどう運用するか、③レジストリを蓄積して臨床研究や開発の PDCA をどうまわすか、などです。この中で、①は SIP「AI ホスピタル」プロジェクトの中で、具体的な議論が始まっていると認識しています。これらは大きなテーマですので、別の検討会を立ち上げるのも選択肢と考えます。

以上、本コンソーシアムでの議論が日本の保健医療における AI の開発加速に貢献することを要望します。

以上